

鳥海山広葉樹林の探索

10月13日(水)酒田市草津字湯ノ台の鳥海国定公園内にある猛禽類保護センターの見学と鳥海高原家族旅行村に隣接している広葉樹林の探索を実施しました。

当日の朝は雨降りの天気でしたが、園児達の鳥海山に行きたいという願いがまさり、出発するころには、くもりになり、午後からは晴れの天気恵まれました。

「鳥海山広葉樹林の探索」には年長組園児38名、保育園先生3名、保育園運転手1名、やまがた公益の森づくり支援センター職員1名、庄内森林管理署1名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター5名、総勢49名で広葉樹林の探索を行いました。

保育園の玄関前で出発式を行い、本日の日程や安全確保について話がありました。また、式では本日のゲストで森づくりアドバイザーの白壁洋子氏が紹介されました。白壁さんのことを「壁さん」と呼んでほしいという本人の希望があり、園児の皆さんから「壁さん、壁さん」と優しい声が掛けられました。早く鳥海山に行きたい園児の皆さんの「エイエイオー」掛け声で、保育園のバスに乗り込み鳥海山に向け出発しました。

猛禽類保護センターでは、猛禽類保護ネットワークの伊藤さんとセンター事務員の村上さんが園児達を温かく迎え入れてくれました。センターでは、猛禽類(ワシ、タカ、ハヤブサ等)の生態などの説明を聞いて、園児達からは、イヌワシやクマタカは大きくて「カッコいい」とかハヤブサの目が「丸くて可愛い」などの言葉が飛び交いました。また、猛禽類の鳴き声や食べ物、卵、などを見て、改めて鳥海山の自然の豊かさを感じていました。

次に、広葉樹林の探索に向かいました。遊歩道を歩き始めた園児の皆さんは、鳥海山の宝物を探すべく、目を輝かせて広葉樹林を見つめていました。暫くすると、園児の皆さんから、「ドングリ見つけたよ」、「この虫何」、「この花綺麗だよ」など喜びを表したかん高い声が上がりました。壁さんからグミノキの説明があり、「この赤い実は食べられません」と説明がありました。しかし、園児の皆さんは赤い実を取って食べようとしません。ある園児からふれセン職員にこのグミ食べてみてと要請があり、職員が食べて見せて「酸っぱい」と声が上がりました。それを見ていた園児達は、次々にグミの実を食べ始め、「酸っぱい」と声を上げながら顔をしかめていました。約1時間ほど広葉樹林を探索した園児達のビニール袋には、鳥海山の宝物がたくさん集まりました。

昼食は、家族旅行村のボビーハウスで行いました。園児達たちは、お母さんやお父さんが作ってくれたお弁当を互に見せ合いながら食べていました。お弁当を食べてる園児達の幸せそうな笑顔がとても印象的でした。

午後から、壁さんによるネイチャーゲーム「木の葉のカルタとり」を実施し、広葉樹の葉っぱの不思議に触れました。

最後に、鳥海山をバックに記念撮影を行い「鳥海山広葉樹林の探索」を終了しました。

